

～真言宗全寺院必備の書～



〈本写真はイメージ写真ですので、実物とは若干異なります。〉

◆本書は予約出版につき、お早目にお申し込み下さい。

## 『続真言宗年表』ご案内

### 私たちもお薦めします

- 総本山仁和寺門跡 堀 智 範
- 総本山根来寺座主 稲葉 信 隆
- 大本山寶山寺貫主 大 矢 實 圓
- 総本山金剛峯寺座主 和 田 有 玄
- 総本山智積院化主 宮 坂 宥 勝
- 総本山西大寺長老 谷 口 光 明
- 総本山朝護孫子寺法主 田 中 真 瑞
- 大本山清澄寺法主 坂 本 光 謙
- 大本山勸修寺門跡 筑 波 常 遍
- 総本山御寺泉涌寺長老 川 村 俊 朝
- 大本山大覚寺門跡 片 山 宥 雄
- 総本山善通寺法主 高 吉 清 順
- 総本山醍醐寺座主 麻 生 文 雄
- 大本山須磨寺貫主 小 池 弘 三

(順不同、敬称略)

20世紀、激動の時代に  
真言宗は、どのように歩んだのか……。

## 真言宗の近代史

# 続真言宗年表

『昭和五年(一九三〇)十二月から平成十二年(二〇〇〇)十二月』

編 著

高野山報恩院  
山口 耕 栄  
(高野山霊宝館前館長)

## 『記録』それは大切な『事実』

山口耕栄師がこのたび「続真言宗年表」の編纂を完結し出版されることになったことは誠に喜びに堪えません。山口師は私が高野山大学の学監に就任した時既に図書館の図書課長を勤め、次々に購入され或は委託される数多い図書の分類整理に当たっておられ、迅速に蔵書の中へ登録して閲覧の便に供さねばならぬので、日々いくらか時間があっても足りない程忙殺される状況の中で、着々と熱心に業務を進めておられました。そうしたことで図書館の蔵書の内容に就いては生き字引きの存在であつただけでなく、それらの資料を活用する面に於いても旺盛な意欲と拔群の力量を備えておられた事が領かれますのであります。お忙しいなか大学の兼任講師として声明・経典読誦を、また高野山専修学院の能化を勤めて法式の指導に力を尽され、また霊宝館長を兼ねて貴重な文化財の管理の重責を担うなど、多忙を極める日常にも弛まず着実に調査を進められ、年表作成に心を配られ正確な資料を蓄積されたものと拝察します。こうした困難を乗り越えて始めてこの年表の編纂が成し遂げられたわけで、この人でなければ出来ない成果であると感じ銘を深くする次第です。

これにより昭和五年十二月から平成十二年十二月までの七十年間の真言宗の記録が完成を見たわけで、これは将来貴重な資料として尊重され多くの人を裨益するであろうことは誠に嬉しい限りであります。山口師の尊い経験によって綿密な調査と弛まない正確な記録作業を持続された努力の結晶であります。

この年表で多大の便益を享受させて頂くことを感謝しながら、いつも机辺に置く書籍の一冊に加えたいと念じています。山口師が長い歳月に亘ってこの年表の作成に尽瘁された御苦勞を懐い、その業績を心から讃嘆いたします。

## 本書の特色

- ★ 本年表は、昭和五年(一九三〇)十二月から平成十二年(二〇〇〇)十二月までの七十年間の真言宗記録を「二〇〇頁に収めたものである。
- ★ 本年表は、昭和六年(一九三一年)四月に出版された「真言宗年表」の続編となるものである。
- ★ 本年表は「西暦」「年号」「年月日」「宗記録」に分類した。
- ★ 本年表の題字は、高野山恵光院前住職 近藤説嚴上綱より賜る。
- ★ 本年表は、出典を付し、その号数を明記した。
- ★ 本年表は、本文を枠付けとし、一ヶ月ごとに細線をもってこれを画し、書き加えが出来るように余白を残した。

上梓を慶す

高野山真言宗前管長  
総本山金剛峯寺前座主

稲葉 義 猛

# 『続真言宗年表』 実物縮小見本 (65%に縮小されています。)

仕様  
B5判 (257cm×182cm)  
上製本・クロス製  
貼箱入・総頁1200頁

一九三五 昭和 一〇	<p>一九三三 地玉不動阿闍梨院住職山口弘道遷化 (智宗九七)</p> <p>一九三四 愛媛和氣阿闍梨院住職小笠原秀定師遷化 (智宗九七)</p> <p>一九三五 真言宗豊前会日比谷公松本住持遷化 (智宗九五)</p> <p>一九三六 高野山大塔完成局長、杉本順郎七回忌 (智宗九二)</p> <p>一九三七 報一六八</p> <p>一九三八 広島東福院住職金尾恵源師遷化 (紀州公論十巻一 高報七二)</p> <p>一九三九 東寺中学院長、泉山長老に決定 (六六一六〇四)</p> <p>一九四〇 豊山大学同窓会の機関紙「神嶺」創刊 (高報七二)</p> <p>一九四一 横濱明倫高女地蔵落成 (高報七二)</p> <p>一九四二 今沼泰山寺住職大本有海師遷化 (高報七二)</p> <p>一九四三 崎玉妻沼法喜院住職鈴木英良師遷化 (高報七三)</p> <p>一九四四 高野山大塔完成局長に宮崎忠徳師就任 (高報七三)</p> <p>一九四五 高野山観光協会創立 (智宗九三)</p> <p>一九四六 千葉東条密蔵寺住職加瀬照海師遷化 (智宗九七)</p>
一九三四 昭和 九	<p>一九三三 紀三井寺新任住職佐竹信光師假入山式 (六六一五九八)</p> <p>一九三四 山形山上普門院住職高橋有芳師遷化 (智宗九五)</p> <p>一九三五 奈良雲山寺東光院住職東山門教師、富雄村長に就任 (六六一六〇三)</p> <p>一九三六 島根浜田觀音院の移転入仏供養 (紀州公論十巻一)</p> <p>一九三七 静岡庵原雲山寺本堂改修落慶 (高報七二)</p> <p>一九三八 智徳院先師忌、智宗九二</p> <p>一九三九 栃木王生興生寺住職田村大榮師遷化 (六六一六〇一)</p> <p>一九四〇 高知高野寺住職藤原光浮師遷化 (高報七三)</p> <p>一九四一 岡山持宝院住職井智泉師遷化 (六六一六〇二)</p> <p>一九四二 埼玉新郷大光寺住職藤原光浮師遷化 (高報七三)</p> <p>一九四三 講談三谷寺先師忌、土宜法胤師第十三回忌 (高報七三)</p> <p>一九四四 後七日御修法豊山派長谷寺小林正盛化主大阿闍梨奉修 (高報七三)</p> <p>一九四五 栃木喜連川東光寺住職佐藤照俊師遷化 (六六一六〇四)</p>

推薦の言葉  
真言宗智山派管長 総本山智積院化主 宮坂宥勝

この度、『続真言宗年表』が刊行されることになったのは、同慶の至りである。昭和六年(一九三一)四月に弘法大師一千百年御遠忌を記念して真言宗豊山派・守山聖真師編纂『真言宗年表』の大著が出版された。委細を尽した此の年表は全真言宗寺院に必備の書であるのもより、研究者にとっても不可欠なものである。これによって一千年以上に亘る真言宗の歩みが、一瞥のものに窺うことが出来るのみならず、我が国の歴史にも深く関わり、時代の推移や社会の動向も多面的に認識される利便とともに史的な興味も尽きざるものがある。

『続真言宗年表』は、この続篇をなすものであって、全一、二〇〇頁ある。編者の山口耕栄師は四十数年前に高野山大学図書館司書を務めておられた。偶々拙稿も同図書館に勤務中であつたので、よく記憶に残っているが、師は高野山年表を手懸けられ、さらには全真言宗の近現代史を編年史的に資料調査をすすめ研究された。篤学の師は、その後『高野山年表』その他を上梓している。さらにまた高野山霊宝館長、高野山真言宗法会部長の要職を勤める傍、本書を執筆された。その多年に亘る地道な労作は、昭和六年以降現在に至るまでの七十年間の全真言宗の年表となつて遂に結実したのである。

二十世紀後半の世界の激動期はまさに戦争と革命の時であつた。わが真言宗もあるいは時代の波に翻弄され、あるいは時代とともに発展して来て現在に至つてゐる。殊には第二次大戦を経てわが国の教団仏教がどのような歩みをつけて来たか、要するに日本仏教の近現代史はほとんどまごどまごど研究が及んでいないといつてよいであらう。本書はその意味でも資料的な価値が極めて高いといわなければならぬ。編著者の多年の御労苦を衷心より謝し、真言宗全寺院が必備されることを念願して、推薦の蕪辞とする。

## 安心のご購入サービス

### 1. 全国どこでも無料配送。

送料はすべて弊社で負担いたします。  
全国どこへでも無料でお届けいたします。

### 2. お支払いは商品到着後の後払い。(郵便局振替用紙)

代金のお支払いは商品がお手元に届いてからの後払いです。  
また、月々のご負担の軽い分割払いもご利用いただけます。(例・12,500円×2回)

### 3. 万一の不良品は責任を持って交換。

製本管理には万全を期しておりますが、万一、不良や不足、あるいは発送途上の事故による破損や汚損が生じた場合は、責任を持って良品と交換いたします。

〈本実物見本はイメージです。〉